

令和5年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立矢口中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

②2年生

(1) 成果

- ・社会的事象への基礎的・基本的な知識が定着しつつある。
- ・前年度に比べて、基礎的な内容の正答率が定着し、特に日本史に関する正答率が良い。
- ・地理的分野、歴史的分野とも定着率が改善されつつある。

(2) 課題

- ・記述問題に関する正答率が改善されてはいるが、数値が低い。
- ・日本地理への定着率の低下が見られる。
- ・気候、特に日本に関する問題への正答率が低い。

③3年生

(1) 成果

- ・社会的事象への基礎的・基本的な知識が定着しつつある。
- ・資料を読み取ることにに関して、興味をもって取り組もうとする意識は感じられる。

(2) 課題

- ・社会科全般への興味・関心に乏しい生徒が多い。
- ・資料から読み取ったものを多面的・多角的に分析することが苦手な生徒が多い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	地理的分野・歴史的分野ともに、基礎的な知識の定着が不十分であるという項目が複数結果として出ている。特に歴史的分野の古代～近世の単元でそれが顕著に見られるため、基礎的な知識の定着を計画的に図る必要があると考えられる。	/	/
第2学年	地理的分野、歴史的分野において、校内平均値が目標値より高い数値を示している。しかし、日本地理や雨温図、記述問	地理的分野、歴史的分野において、校内平均値が目標値を超えており、全体の正答率、定着率が高い。しかし、日本地理や	/

	題といった分野においては全体と比べると数値が低い。	雨温図、といった分野においては全体と比べると下がっている。	
第3学年	地理的分野、歴史的分野において、全体の正答率・定着率は高い。しかし、昨年と比較すると江戸時代に関する正答率が下がっている。	地理的分野、歴史的分野において、校内平均値が目標値を超えており、全体の正答率、定着率は高い。しかし、日本地理や雨温図といった分野においては全体と比べると下がっている。	領域別正答率および観点別正答率において、全国の平均程度となっている。一つの観点で、全国の平均を若干下回っている。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主に歴史的分野の「天皇中心の国づくり」「天下統一と江戸幕府」の項目で基礎的な知識の定着が不十分という結果が出ている。基礎的な知識の定着を図るための授業改善が必要である。	知識・技能の観点同様、歴史的分野の「天皇中心の国づくり」「天下統一と江戸幕府」の項目で思考・判断・表現の評価が基準よりも低くなっている。そのため、知識・技能の定着を確実に図ることが優先事項であると考えられる。	歴史的分野で習う事象、特に古代から中世の学習は自分の生活との関連性を実感しづらく、興味関心が低くなる傾向にあるため、生徒の興味関心を引き出すような工夫をしていく必要がある。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日本地理における正答率が高くない状態である。特に「日本の領土・領海・領空」の部分での全体的な苦手意識が見られる。	地理的分野での数値が課題となっている。歴史的分野では、高い数値が出ている。特に「縄文時代～古墳時代」での正答率が高い。	全体的に高い正答率となっている。しかし、「知識・技能」と同じく、「日本の姿」に関する正答率が昨年度と同じように全体と比べると高くない。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的分野、歴史的分野ともに、目標値や区平均、全国平均を上回っている。また、前年度の課題であった日本地理についても数値として向上したように見える。歴史的分野に関しては、江戸時代が昨年と比べ低く課題が残る結果になっている。	地理的分野、歴史的分野ともに、目標値や区平均、全国平均を上回っている。資料を読み取り、考察、記述する力に課題が残る結果になっている。	地理的分野、歴史的分野ともに、目標値や区平均、全国平均を上回っている。一方、昨年度課題であった、日本の気候の部分については、正答率も改善傾向にある。

る。		
----	--	--

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史の流れの中核的な出来事や人物を知識として確実に定着できるよう、それぞれの語句を暗記するのではなく、出来事と出来事、人物と人物、出来事と人物の関連性や、背景などに着目させ、なぜこのような歴史の流れをたどったのかを考える中で知識を獲得、定着できるように授業の展開をしていくことで改善を図っていく。	当事者意識を持たせることが思考力・判断力・表現力を高める基盤となるため、身近な社会的事象と関連付けて課題や問いを設定していくことで改善を図っていく。また、單元ごとに課題に対する自分の考えを論述させることを通して、思考・判断・表現の場を意図的・継続的に設定し、能力の向上につなげていく。	單元ごとに学習課題を明確に示すことで、何のためにこの単元の学習をするのか、何を目標に学習を進めていくべきかを生徒が常に意識して授業に参加できるように工夫する。これによって、生徒の学習意欲を持続させ、ねばり強く学習に取り組む態度を育てていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日本の地理や気候に関する問題の正答率が低いいため、まずは日本の都道府県の位置関係を把握させ、空間的な理解を促していく。また、各地の産業構造について、繰り返し学習をしていくことを心がける。	資料を活用して、自ら課題を見つけたり、解決したりすることに対する苦手意識が全体的に高い。新聞記事などから現実に即した情報を提示し、適宜生徒への発問を行い解答を求めていく。	地理的分野での「知識・技能」と「主体的に学習に取り組む態度」に関して、数値が低くなっている、歴史的分野に対する興味関心が高いので、ICT機器や映像を用いて、より興味や関心を引き出していく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的分野に関しては、2年次で終了してしまったため、小テストなどを定期的実施することで苦手改善に努めていきたい。歴史的分野に関しては基礎知識を重点的に授業内で確認していく。公民的分野に関しては、基礎知識を中心に日本国憲法や国の政治の仕組みなど、高校での学びにつながる部分でも	WSやレポートにおいて、現代の社会課題に対して学習内容や各種資料を活用し、回答する課題を毎授業で課し、公民的な見方・考え方を伸ばせるよう心がける。	ICT機器等を用いた資料提示や動画使用により視覚情報を刺激し、学ぶ意欲を育む。時事問題を取り上げ、解説することにより、社会全般に対する意欲や関心を高める指導を行う。

あるため、繰り返し授業内で 確認の時間を確保する。		
------------------------------	--	--